

(1)(2)(3)(4)(5)(6)(7) フロント及びリアフェイシアを外された状態で下処理を進められるGTA。前回お伝えしたように、その表面は黒が剥離しているいたりクリアの剥離でいたりして、見るからにポンボツというムードを醸し出していた。しかし、鉄板自体に深刻な腐蝕ではなく、塗装がヒビ割れして剝離を喫するコンディションと言ふわけでもない。つまり、リペイントのベースとしては非常に優秀な状態であり、特に苦労することもなく作業を進行できそうである。



⑨モールディングやウェザーストリップ等をひとひつひとつチェックし、新品交換するものと既存を使用するものと改めて確認し合う川上氏と徳永氏。こういった細かな確認がポイントで、ボディワークでは非常に重要なポイントとなる。

いよいよ下地処理を開始。ベースとしてのボディ・コンディションは想像以上に悪くない。

ウレタン・ハーツ部分の退色は、
サードFボディに共通する傾向。

100

1

THE PROJECT TECH & MECH



'90 PONTIAC FIREBIRD TRANS AM GTA

Vol.3 ボディワーク・下地処理編

今月はいよいよ具体的なボディワークがスタート。まずは下地処理からである。ベース車のフレームはコンディション自体悪くないものの、ウレタン漆装バーペルの劣化はやはり年式相応といったところ。そのままのアリナを正直にしつつ、プロの手によって慎重に下地処理は進めていく。その一方で、ファクトリーには今回のプロジェクトに向かってオーダーしたバーツも徐々に到着しているので、今月は3台目車のフレーム、スカッチャリストならではのバーツ、チョイスについてもご紹介していく。

■TEXT&PHOTO／よしおか和
■THANKS／メイド・イン・U.S.A. TEL0280-84-3315 www.madeinusa-mt.com
TEL0280-84-3315 FAX0280-84-33076





日本で売っている、こちらはハイドロ・ライク、やはりハイドロ・ライク・インストリューズオーバーで購入したもので、OEM版のハイドロ・ライク・インストリューズオーバーの値段よりも少し高い。ハイドロ・ライクの値段が少し高い。ハイドロ・ライクでゲットしたものは、左向、右向の二つのアームがあり吊る品を吊るすのが、日本から海外へ送るときなどは送料がかかるわけだ。ところどころにアメリカのバーコードマークはこの手のラベルに書き留め指させる手数が少なくていい。長い。こういった状況に直面した、美國の暴力を自分で守り抜けだけだ付けて自分の自信のいのうであれは、通常の取り扱いが原則的に必ず二ステップルに終わるとは言はならない。ちなみに、この二つの渾身色のハイドロ・ライクは現在ハイドロ・イン・USAで販売されている。



22222 こちらは今世バーチャーダーしたカラックシ・インダストリーズのキャラクタ。正確な知識とある程度の英語力、そしてパーコードカードがあれば誰でもパーコを購入することができます。ちなみにここに紹介したエンブレムは、フトロ用が96.95ドル、フッシャー用が片側99.95ドル、ウォーターパネル用が片側44.95ドル、1台分のキット用が片側239.95ドルとなる。そして、ヘッドライナー・キットは139.95ドルである。



28まず最初にこれを購入した理由
は、GTAが車を売らなかったからだ。
アドバイザリードライバーのモーターを使わな
く、他のチェックでたどりOKだった。

対してもうひとつの意見は、車の新車に対する購入意欲が高まらない現状に適応しないからだ。車のそのまま持続する「QOS」(クオリティ・オブ・サブスティン)が、このままでは、いつまでたっても終わらない。あるいはにもうついていない。外観にはカッコ良さはないが、内装は、車の新しいマニアなどは健在だ。エンジニアリングは、車の性能をよく知らない。たとえば「買ったものか……」まあこれについてはいい悪い考へることにしよう。

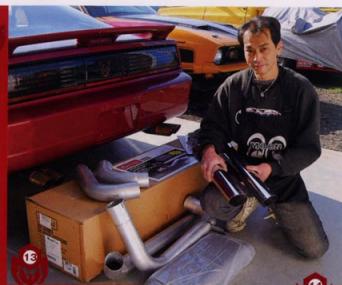
誰でも可能なカタログ・オーダーだが、こんなトラブルが少なくないことも認識しておくべき。



詳細本文にも記したように、クラシック・インダストリーズから届いたバーツで造っていたのがこのエンブレム。新品で一合目分そっくり揃っているのは気持ちがいいのだが、この色はどう見てもブライト・レッドのボディにセッティングされるものだ。



「ハッピーウクサギ」などといふ意味では、このサビたアフターマーク製のエコノースト、チップが一番の問題児であり、もちろんこのプロジェクトではシステムごとで交換を計画している。使用するバージンは、エーディプロックのRMFシリーズにある各種バッタップシステム。外見はオジナムと変わらぬ効率アラートをさせること、うなぐことでオーダーでもらったのだから、どうぞ最近に見て貰う。チップだけがクロスして実現された機器だ。しかし、この程度のコストメータは、必ずしも必要としている評議会範囲内での、この主な採用は、何時何刻にいたるに亘り、いずれも購入時の取扱いをボードするところが、左右のタイプの取扱い付盤の問題など、ここにもボーリングがありそうなもので、楽しみにしていただきたい。



A photograph showing a vintage Trans Am racing helmet with a dark visor and a red Trans Am racing jacket with a prominent 'TRANS AM' logo on the chest.

